

被災者と食事・健康相談・紙芝居・タオル体操などで交流

大崎健康福祉友の会
加美支部



大崎健康福祉友の会加美支部（支部長菅原博志）では、5月10日、午後2時から、加美町中新田交流センターで、震災の被災者と一緒に「おらほのお茶っこ飲み会」を開催しました。会には大崎健康福祉友の会会員、古川民主病院・中新田民主医院・みやぎ保健企画の職員が参加しました。

同センターは双葉町・南相馬市（福島）、南三陸町、石巻市、女川町などから66人が避難しており、そのうち約30人が参加して、食事会、血圧測定、体脂肪測定、紙芝居、タオル体操などで交流を深めました。

菅原支部長が被災者を励まし、健康について不安があったら何でも相談して下さいと挨拶、そして、農家レストランをしている会員さんなどが作った季節の山菜や野菜、手作りケーキを頂きながら健康相談会を行いました。

看護師の菅原清子さんは「特別血圧の高い方はおられませんでした。体調は大丈夫のようです」、薬剤師の鈴木道子さんは薬の相談を受け、化粧品などを配布「保健師さんが定期的にまわって来て、医療が必要な場合は加美町立病院を受診しているようです。」と話してくれました。タオルを使った体操は、看護師の中島まさよさんが担当、「北国の春」の曲に合わせて、明るく元気な声で「消費税は上げさせてはなりません、腕を大きく上げましょう！」などと話す参加者も笑顔で体操していました。その後、被災された方のお話を聞きながらとても和やかな交流ができました。

加美支部ではこれからも継続した取り組みしたいと話していました。



この紙芝居はとてもおもしろい!?



元気で学校に通っています

避難所近くの鳴瀬小から七海さん（南三陸町）が帰ってきました。ランドセルが古かったので話を聞くと新品を校長先生から貰ったが6年生なので新品でなくても、学校に慣れた？の問いに「明るく返事をしてくれました。登下校は南相馬の5年生と一緒にです」

本当に家に帰れるか不安 原発近くの双葉町から避難



吉田栄子さん（双葉町から）

福島県双葉町から避難してきた吉田栄子さん（64）の自宅は、福島第一原発から約6kmの警戒区域内にあり立ち入り禁止です。地震の被害は物が落ちた程度なのですぐ家に帰れると思っていました。ところが避難所を4回も移動しました。最初の避難所では7人家族でおにぎり3個で過ごしたことも、娘さん家族とは別々に避難しています。小学2年のお孫さんが加美町の小学校に通っていますが来年の春には地元の小学校に通えるか、また原発の近くなので自宅に帰れる保証もなくとても心配ですとのこと。5月13日には一時帰宅でご主人が短時間家に戻る予定。仮設住宅の申し込みをしていますが結果はまだです。放射能汚染は目に見えないし、町からの情報もないので（双葉町は町役場がさいたま市へ移転）不安な日々を過ごしています。また、原発は安全だと話されていたとも。

震災で助けられた命ですので一日一日大事に生きていきます



兼田茂さん（南三陸町から）

「タオル体操は体を動かすことが少ない生活の中で、楽しく気分転換ができました」と話してくれたのは、南三陸町から避難してきた兼田茂さん（61）。7年前母を介護するため地元に戻り、震災にあいました。4月29日には避難所の方と一緒に折った千羽鶴を広島の原爆の子の像に納めてきました。これは全国の皆さんから支援物資、心の物資を頂いた感謝の証、これからも平和でいられますようにとの願いを込めてとのこと。人は一人では生きられない。みんなで支え支えられ生きたい。震災で助けられた命ですので、一日一日大事に生きていきます。と